

新しくて懐かしい学校をつくる

一町のリビングのようなタウン commons が繋ぐ多彩な活動



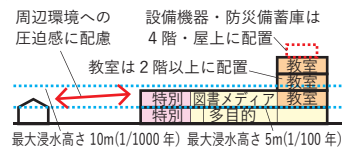
全体俯瞰イメージ：南側2階、北側4階とした周辺環境に配慮した建物形状



北側外観イメージ：屋外にもベンチなどを計画し様々な居場所をつくる

水害から命を守る断面構成

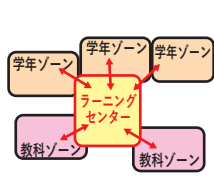
浸水被害時に**命を守る**ことを最優先し、児童生徒の拠点となる2階以上に配置します。地域の防災拠点としての役割を果たす学校とします。



私たちが目指すのは、ふたつの学校の記憶を継承したみよしの未来を創る学校です。本提案をたたき台として、地域ぐるみで児童生徒を見守り育てられるような、人々が気軽に集まれる開かれた場を、みなさんと一緒に創りたいと私たちは願っています。

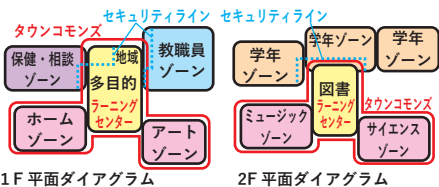
ラーニングセンターを中心とした空間構成

多目的室と図書からなる「知=地の交流拠点ラーニングセンター」を中心に、様々な機能のまとまりを配置し、各領域の連携が図りやすい計画とします。



町のリビングのようなタウン commons

タウン commons と名付けたまとまりを、家族・地域にも開かれた町のリビングのような場として、多彩な活動に彩られたコミュニティスクールを実現します。



■テーマ1「敷地を有効に活用し、安全・安心かつ児童生徒の学習や生活の場として良好な環境を確保する学校」について

■安全・安心な交通・動線計画

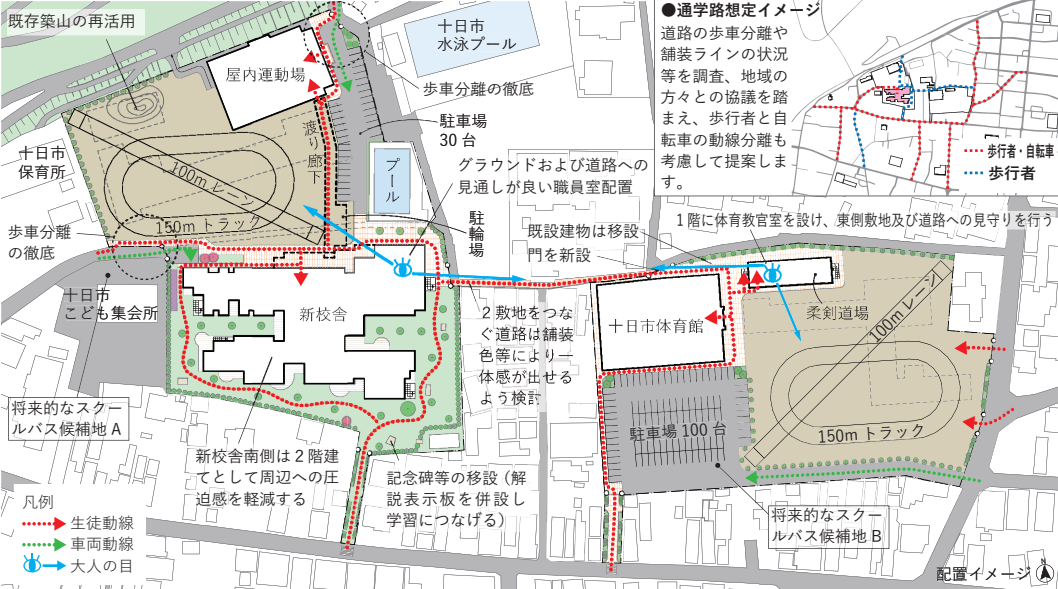
敷地周辺の歩車分離を明確化し、児童生徒、保育所からの動線を安全・安心な道へと再編します。

日除けを兼ねた屋内運動場への渡り廊下

新校舎と屋内運動場間は、グラウンドでのイベント時の日除けを兼ねた渡り廊下でつなぎ、雨天時の移動に配慮します。

敷地間移動を見守る職員室と体育教員室（柔剣道場1階を再編提案）

職員室と別敷地に新設する体育教員室から敷地間移動を見守れる環境とします。新しい門の新設により公道移動距離を最短とします。



住宅地への圧迫感軽減と眺望に優れた全体計画

住宅地側の校舎は、十分な離隔距離を確保した2階建てとして圧迫感を低減し、工事期間の短縮化により工事の影響を最小限とします。グラウンド側校舎は眺望に優れた4階建てとし、周辺環境や景観に配慮した全体計画とします。

基本設計段階で皆さんと協議したいポイント	今回提案		●配置・断面計画比較表
	2階建て周辺への圧迫感を低減できる室内を確保...	3階建て周辺への圧迫感が大きい	
	周辺への圧迫感低減、高さ10mの水害時の安全性重視	高学年ゾーンとラーニングセンターの関係性が明快、圧迫感、水害時の高さが課題	

■備えない防災計画〈フェーズフリー〉の実現

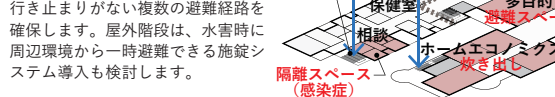
地域開放エリアの日常的な空間を非常時の空間へとモードチェンジして活用できるフェーズフリーな地域避難所とします。

■地域開放可能なタウン commons
日常的にタウン commons として地域開放する空間を、非常時に避難スペースとして活用しつつ学校運営が継続可能な計画とします。

■行き止まりがない複数の避難経路
建物内動線の端部に階段を設け、行き止まりがない複数の避難経路を確保します。屋外階段は、水害時に周辺環境から一時避難できる施設システム導入も検討します。

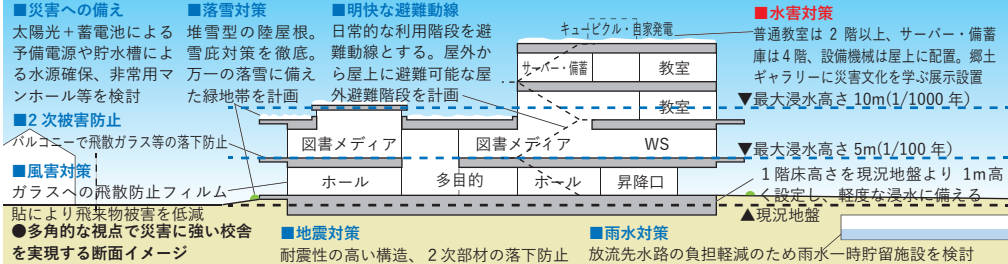
■見通しの良い職員室
職員室からは、昇降口や地域玄関、グラウンド、タウン commons を見通せる配置とし、生徒・地域住民とのコミュニケーションが図りやすい計画とします。

■感染症対策
適切な水場（衛生）とクラスセット内の OS による人員密度調整による感染症への対策を行います。



災害に強い建築をつくる

多角的な視点と豊富な実績を生かし、さまざまな災害に強い建築をつくります。特に、浸水被害時に命を守り、設備機能の維持を重視した計画です。

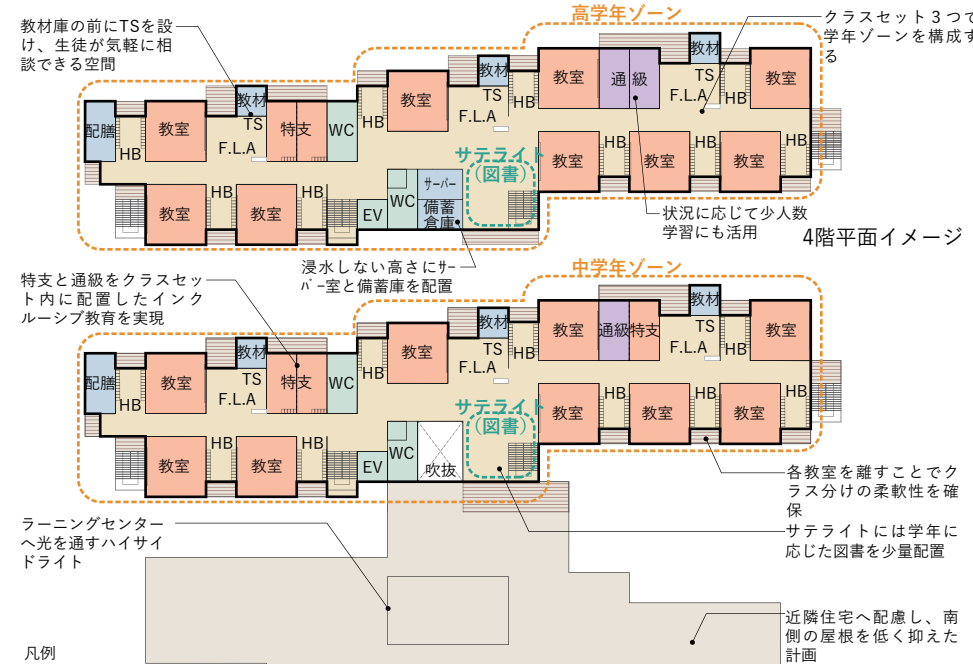


■学校の記憶を継承する緑豊かな散歩道

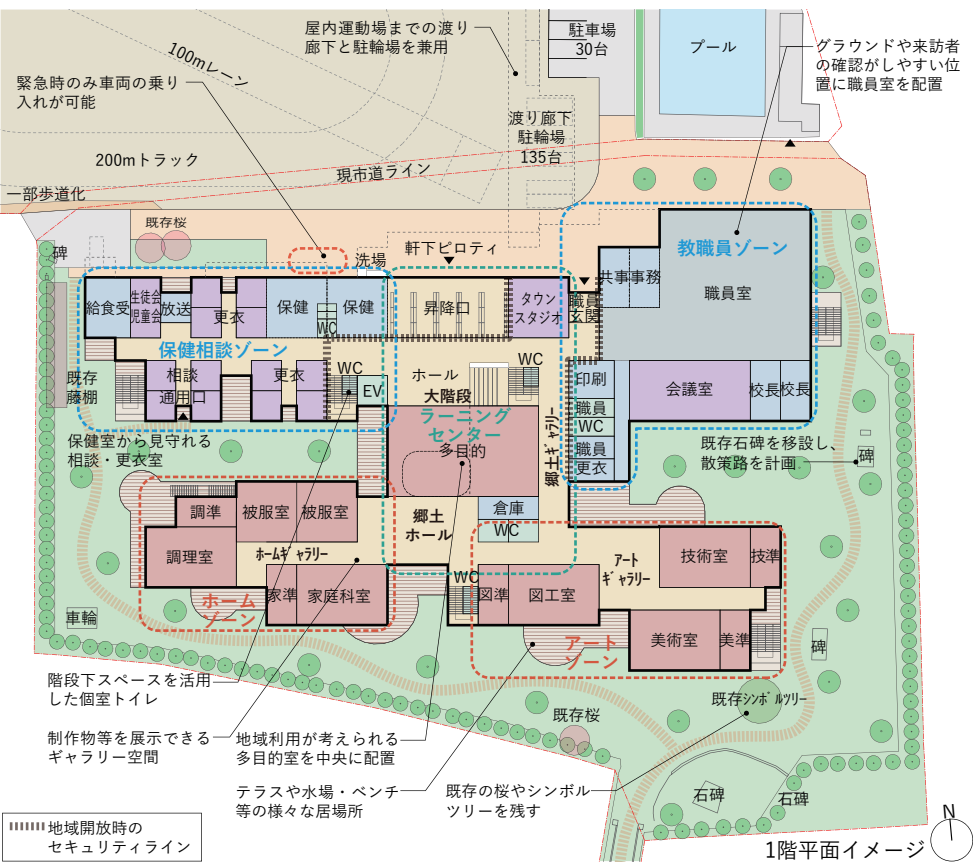
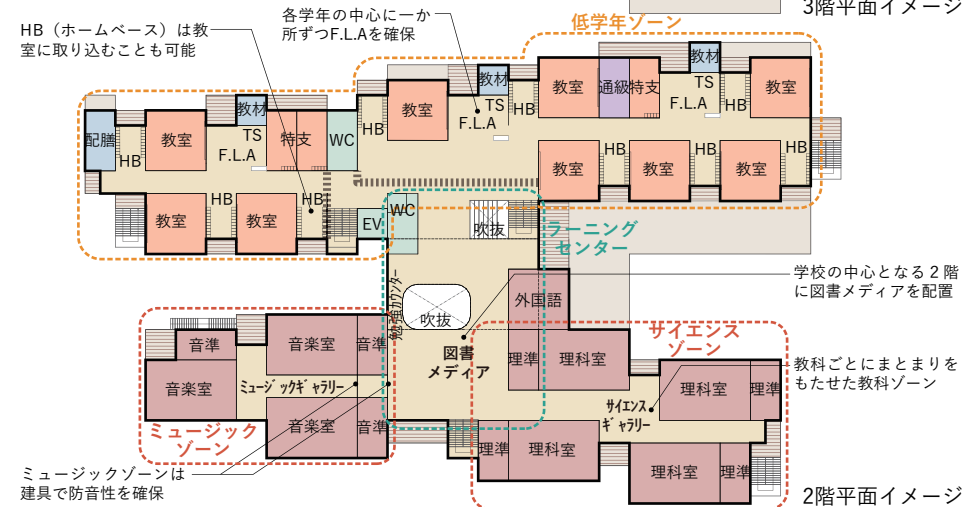
校舎、グラウンド周りは、地域に開放された緑豊かな散歩道とし、緑に包まれた学校の景観をつくります。既存植生や記念碑等を再編した懐かしくて新しい散歩道です。

木の温もりある豊かで快適な空間

仕上や什器・備品の木質化により木の温かみある快適な生活環境を整えます。



3階平面イメージ



1階平面イメージ

様式10 評価テーマに対する提案 「敷地を有効に活用し、安全・安心かつ児童生徒の学習や生活の場として良好な環境を確保する学校」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間の実現」、「地域や社会と連携・協働し、多様なつながりで共創する学校」、「経済的な建設手法」についての提案

■テーマ2「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間の実現」について

■「知＝地の交流拠点ラーニングセンター」を中心とした空間構成

多目的室と図書メディアからなるラーニングセンターを中心に、性格の異なる各領域のまとまりと連携に配慮した明快な空間構成とします。ラーニングセンターが、学習成果の発表や多彩な学び、異学年交流を誘発します。

学年を超えた多彩な学びを生む「教科ゾーン」

特別教室の各教科のまとまりを大切にした教科ゾーンのギャラリーには、各教科の学習履歴や関連書籍などが置かれ、**小中学校の枠組みを超えた多彩な学びを育む環境を整えます。**

「さまざまなギャラリー」となる廊下

廊下に面した壁を展示面やホワイトボードとし、様々な領域のギャラリーと位置付け、校内を歩くだけで**学習履歴や異学年の情報に触れる**ことができる環境とします。

成果発表の場となる「大階段」

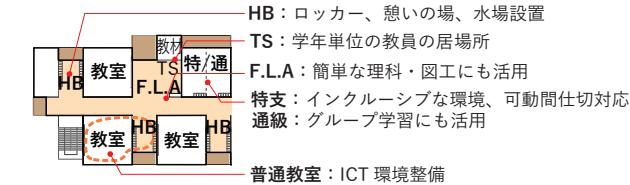
エントランスホールに面した大階段は、成果の発表や講演会、読書など**多様な学びや憩いの場**となります。

■成長過程に応じた「クラスセットと学年ゾーン」

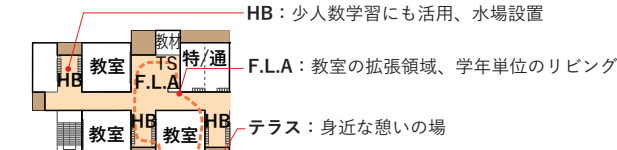
特別支援、通級を含めた各学年のまとまり（クラスセット）と、「3・3・3学年」のまとまり（学年ゾーン）を大切にします。**成長過程に応じた学びや、教育方法の変化に柔軟に対応できる学びの場とします。**

■小中学校領域を明確化「クラスセットと学年ゾーン」

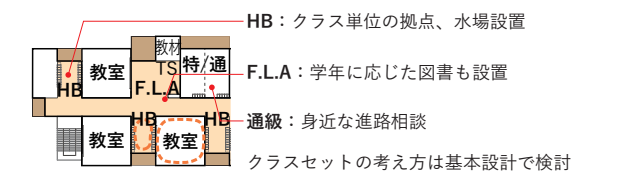
低学年クラスセット：身体寸法・能力に配慮した空間



中学年クラスセット：図書メディア・高学年ゾーンに近接させた空間



高学年クラスセット：中学の領域性が明快で静かで落ち着いた学習空間



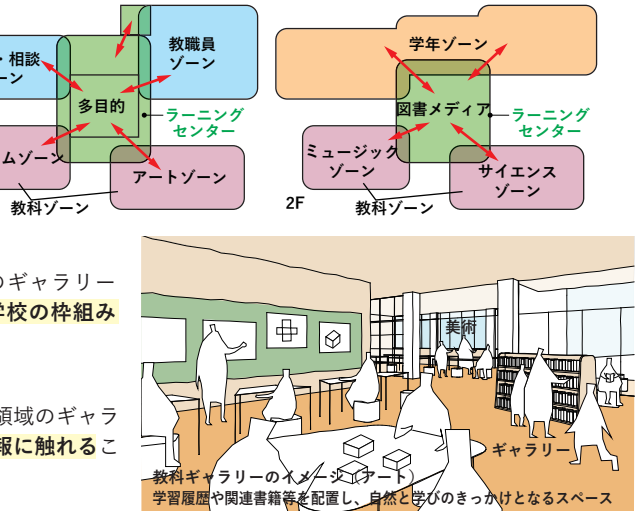
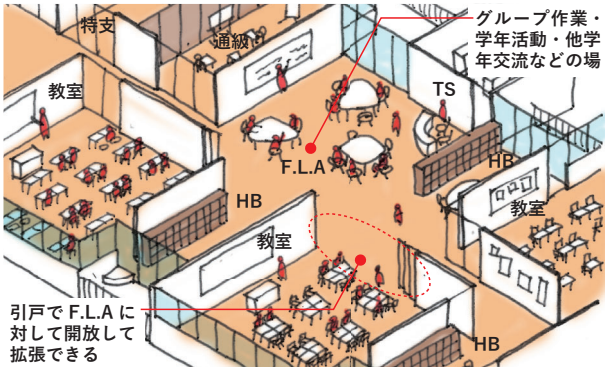
教室の拡張領域となる

「F.L.A.(フレキシブルラーニングエリア)」

学年単位の F.L.A. は、多彩な学びや憩いの場となる教室の拡張領域です。

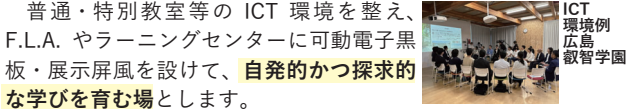
学年ごとに性格が異なる「HB(ホームベース)」

充電器やロッカー、掲示板のあるホームベースは、憩いの場や個別学習、グループ学習等に活用します。

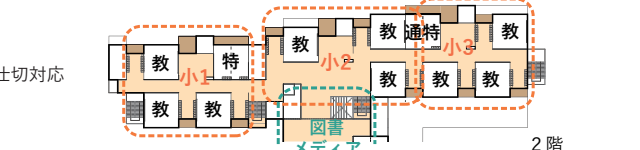


自発的かつ探求的な学びを育む ICT 環境

普通・特別教室等の ICT 環境を整え、F.L.A. やラーニングセンターに可動電子黒板・展示屏風を設けて、**自発的かつ探求的な学びを育む場とします。**



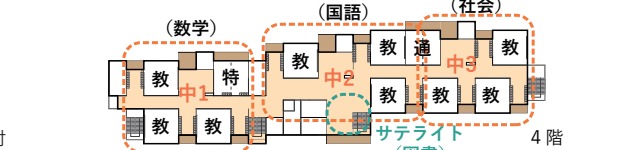
低学年ゾーン：個々の特性、社会性の育成に配慮した 1.2.3 年生のまとまり。



中学年ゾーン：中学進学への円滑な移行に配慮した 4.5.6 年生のまとまり。



高学年ゾーン：各学年を国語、数学、社会に再編した教科センター方式への移行もできる 7.8.9 年生のまとまり。



教材庫とセットになった

「TS(ティーチャースペース)」

学年単位のティーチャースペースが、児童生徒と先生の対話の機会を豊富化します。

少人数教育にも適した通級学級

児童生徒の状況に応じて、通級学級を少人数教室としても活用します。



■テーマ3「地域や社会と連携・協働し、多様なつながりで共創する学校」について

■コミュニティスクールを実現する「タウン commons」

・ラーニングセンターを中心に、地域連携室や教科ゾーンにまとまりを持たせたタウン commons が多様な活動の連鎖を誘発します。
・各教科ゾーンでの創作・調理・演奏・講演や、多目的室での発表や展覧会、図書での読み聞かせなど、さまざまな場面で、**家庭や地域住民、十日市保育園との異年齢交流**が図りやすい計画です。

地域連携・交流の拠点となる「タウンスタジオ(地域連携室)」

出入口は教職員と兼ねた職員室近くに設け、**セキュリティ確保と教職員との交流**が図りやすい計画とします。

みんなが気軽に立ち寄れる「多目的室」

エントランスホールに面した多目的室や大階段を配置し、職員室からの管理がし易く、**みんなが気軽に立ち寄れる環境とします。**ランチルーム利用も想定して家庭科ゾーンを近接配置します。

記憶を継承する

郷土ギャラリー

多目的室に近接して郷土ギャラリーを配置し、**歴史・文化を体験的に学べる場とします。**

■小中連携しやすい職員室

小中の先生同士の連携を図りやすくするため、打合せスペースを共有し、小中の執務スペースをゆるやかに分け、ゆとりを持たせて一体化します。入口付近には生徒が気軽に先生に相談できるカウンターやテーブルを設けます。

■保健室から見守る相談・更衣室

保健室の近くに相談室と更衣室を配置し、**見守る環境を整えます。**相談室は外からも直接出入りできるようにし、児童生徒の安心感に配慮します。

LGBT 等に配慮した個室トイレ

思春期の児童生徒や LGBT 等に配慮して、1階階段下にコスメ等のある**個室トイレ**を設置します。

インクルーシブ教育の実現

各学年で教室配分を調整できるように、通級・特別支援教室のセットを学年 commons に配置し、**インクルーシブ教育と児童生徒の多様な特性に配慮**します。

■多様な居場所を創出する家具デザインとテラス・庭

建築の内外の適材適所にベンチ、カウンター、水場、性格の異なるテラスや庭を設けて児童生徒の状況や個性に応じて**様々な居場所を選択できる環境を整えます。**



■テーマ4「経済的な建設手法」について

■建設コストの管理を徹底

設計初期段階で建設費の大部分が決定するため、基本設計での建設コストチェック（主な工種を積み上げた概算）を徹底します。

コストの変動要因の抽出とリスクへの早期対処

コスト変動要因	アプローチ方法
①敷地条件	・地盤条件から掘削深さや基礎仕様を検討 ・施工条件による特別な加算項目の有無を検討(周辺環境、施工ヤード、工事車両動線などに対する特別な配慮の必要性など)
②設計内容	・コストインパクトが大きく、変更による手戻りの大きい整備範囲の整理、建築の骨格・基幹設備は初期段階に綿密な比較検討を実施 ・性能の調整が比較的容易な仕上げ材料等は設計段階でコストのかけどころを吟味
③発注条件	・家具、什器などの発注区分の調整
④建設物価	・建設物価の変動も大きな要因と捉え、建設物価の変動予想を行い、計画内容を調整

イニシャル・ランニングコストの徹底管理

設計内容に伴うイニシャル・ランニングコストの徹底管理を、以下のリストのような具体的な項目に基づき検証します。

●イニシャルコスト（建設時コスト）削減及び工期短縮例

計画	・廊下の少ない平面計画による面積のコンパクト化 ・必要諸室の取捨選択、面積規模の適正化 ・現市道にかけられない建物配置により上水やり変え費用を低減
構造	・構造表し仕上げを適宜採用し、仕上コスト低減 ・地盤調査結果により杭の無い基礎計画（地盤改良） ・標準的な構造スパンによる経済的な構造 ・RC 造型枠・鉄筋のユニット化による工期短縮 ・RC 造床に鋼製型枠デッキを採用し、支保工を減らした工期短縮
設備	・自然通風活用、高断熱による空調機器低減
外構	・建設発生土の敷地内外構利用による残土処分費低減

●ランニングコスト（運用時コスト）削減例

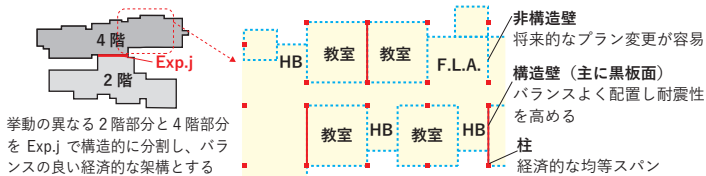
計画	・スケールメリットを生かした素材・構法選定
構造	・RC の品質管理の徹底によるクラック・中性化防止、耐久性向上
メカニクス	・設備シャフトの集約化 ・メンテナンス中長期計画の作成・運用
素材	・高耐候・耐久性、ノーマンテナンス素材の選定
自然エネルギー利用	・太陽光発電・蓄電池による創エネルギー
熱負荷軽減	・複層ガラスの採用、高断熱・外断熱化
高効率化	・照明の LED 化、人感センサー、利用制御など ・換気的全熱交換器採用、適切な空調要領選定
ICT 活用	・BEMS 導入による光熱費の見える化

室兼用による面積削減

各室の稼働率精査や、多目的室を兼用することによる特別教室の室数減など、初期段階の与条件整理で**予算に応じた適正面積を検証**します。

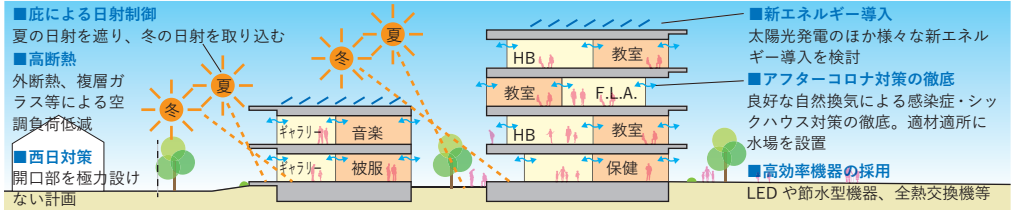
■間取り変更がしやすい柔軟な構造計画

将来的な児童生徒数の変動、時代の変化に応じ、**間取り変更がしやすい耐力壁**が少ない合理的なラーメン構造とし、様々な災害に強い建築とします。



■自然エネルギーを最大化し、維持管理が容易な設備計画

東西に長い建築とし、自然通風や採光など**自然エネルギーを最大化**します。設備配管の集約化や、足場が不要な設備機器設置により、維持管理が容易な計画とします。



■学習環境に配慮した安全・安心な建替え計画

各工事段階で、工事範囲を明確に区画し、工事車両と児童生徒の登下校動線の**歩者分離を徹底**します。仮設校舎を用いない工期短縮に配慮した建替え計画です。

